マイウェイ

大淀町　U・D　さん

娘は知的障害を持って生まれ、35 才になりました。
つい最近、御所市内にあるグループホームに入居してそこから通所施設にかようようになりました。

日頃から、私が７５才ぐらいになったら入居させようとは漠然と思っておりましたが、ある時たまたま育成会の冊子を読んで、これは悠長にかまえていてはいけないと急にあせりを感じました。その内容は「親が元気なうちに子供の将来が自分らしく生きられるよう支援してくれる施設（人々）といっしょに準備して･･」等、わかっていても文字を目にするとはっと、するものでした。

娘は日頃からショートステイは経験させており、親はいつかいなくなるという話もし、その時はどこかの施設に入るという話もしておりました。その時期を私が７５才ぐらいになったら、と自分で決めておりましたが、よく考えると、それまで私が元気でいる保証はなく、その時に希望する施設がみつかり、空きがあって入居できる保証もなにもないのです。

施設を探すに際しては、今通っている通所施設に通えて、金銭的にも折り合えて、何より本人がストレスのない平穏な暮らしができることを前提に考えました。幸い体験したグループホームが本人も気に入ったようで、数か月後に入居が決まりました。

入居が決まる前は、不安であせっていたのに、決まったらまた心配で眠れない日々が続きました。同じ経験を持つ友人に相談して、こんな思いは、私だけではなかったと、やっと救われたような気がしました。

娘の今の暮らしは、平日は通所施設に行き土日はだいたい実家に帰り、月３回ほど移動支援のサービスを受けて、ほぼ今まで通りの生活のリズムでやっていけているようです。

入居して、とりあえずの安心感はうまれました。しかし、今は親がまだ居て、帰る家があり、親のフォローがあるから、親も本人も落ち着いてやっていけるのでしょう。

将来私がいなくなった時のことを考えると、娘が日々の生活で困らないように、自分らしく生きられるように、娘を支援してくれている施設や人々ともう少し準備していく必要があるように思います。将来のことはわかりませんが、親として、子供への心配はつきないようです。

サンメイト　本人委員会より

「サンメイト」委員会はコロナ禍ですが感染対策を行いながら活動しています。
10 月 23 日の近畿知的障がい者福祉大会本人大会で近畿各府県の本人活動の様子の映像を流します。
奈良県はハンドベルの練習と、本人トークの進行役準備の様子を録画したいと思います。今後、コロナが収まったら、ハンドベルはサンメイト会員の皆さんにもいっしょに楽しめる日にちをお知らせします。

ハンドベルの練習がんばろう！